

市民が創る二和劇場 初笑いふたわ寄席

取材日：平成23年（2011年）1月27日

【活動内容】

小ホール的な機能を備えた二和公民館の講堂（定員349名）は、可動式椅子で客席が設置でき、舞台、楽屋、音響、照明を備える船橋市内でも数少ない恵まれた施設である。この貴重な財産の有機的な活用を図りながら更なる文化芸術の振興に向けて、市民による舞台裏方ボランティアとして地域の文化を公民館スタッフと一緒に育てているのが「二和劇場ボランティア実行委員会」（愛称、ふたわ影丸）である。

ふたわ影丸は、同館で行われた「裏方講座」の音響・照明・舞台の3回講座を受講した人たちが中心となって、地域の舞台をプロデュースしようとの思いから、平成19年4月に公民館側の呼びかけで立ち上がったボランティアグループである。メンバーの年齢層は幅広く、同館技術スタッフの指導を受けながら幅広い活動を行っている。その内容は、広く地域芸術活動の振興を図るために二和劇場が行っている自主事業「おひろめらいぶ」を始め、二和劇場の運営全般を二和公民館と協働しながら活動を行っている。

【おひろめらいぶのプロデュース】

二和公民館では「二和劇場」というシリーズもので、市民に質の高い催し物を身近に楽しんでもらう事業を行ってきている。その二和劇場の中に「おひろめらいぶ」という企画がある。そこでは、デビュー直後の若手アーティストを積極的に取り上げ、まさに二和の舞台からお披露目してもらおうという企画である。当日の舞台裏はもとより、演出や曲目を含め、広報活動なども同館職員と一緒にコーディネートする活動を行っている。メンバーはこのライブを通じて必要なスキルの習得、研鑽にも努めているのである。※平成23年度より「二和劇場」と「おひろめらいぶ」は一本化し実施

【支援金事業】（支援対象経費総額 300,680 円 支援金確定額 150,000 円 支援率 49.89%）

今回の支援金事業は、市民にとって貴重な財産となっている二和公民館講堂の有機的な活用を図る一助として、新年の機会を捉えて公民館とともに心豊かなまちづくりと交流のため、市民を対象に「初笑いふたわ寄席」を開催するものである。明るいまちは“笑い”からをコンセプトに、二和劇場ボランティア実行委員会と二和公民館が協働して企画・運営を行うこととしている。このために必要な舞台・音響・照明の知識・操作は22年度予定の「おひろめらいぶ」（年4回）に参加して、講習を通じてスキルの向上に努めることにしている。

【ふたわ寄席に参加して】

支援金事業として1月15日に行われた新春恒例のふたわ寄席は、今回で4回目の催し物である。昨年12月15日の市広報に掲載された日から入場券が一人500円で当公民館にて販売されたが、二日目にはほぼ完売の盛況となる人気がある。当日は自由席ということもあって、少しでも良い席をとの思いもあって、開場予定時刻の30分前には公民館に入ったが、既に数十人が一列状態に並んで入場を待っており、会場時刻が近づくにつれホールは立錐の余地もない状態であった。13時30分の開場と同時に先頭から整然と講堂に誘導されたが、あっという間に講堂の椅子は埋め尽くされていた。

14時の開演はプロのアナウンサーによる軽快なご案内により始まった。正月に相応しい和服姿で当日の趣旨、出演者の紹介等のユーモア溢れる司会の中で、本日の事業は船橋市の助成金を頂いている事業である旨の披露がさりげなく盛り込まれており、関係者の気配りの一端が表れていたのが印象的であった。後日談ではあるが、同司会者は4年連続、しかも和服は自前のものを用意されていたとのことでした。

当日は落語を中心に縁起物の太神楽の出し物と盛り沢山であったが、あっという間の楽しい2時間だった。特に4代目「柳亭市馬」の得意ネタである「掛取美智也」はあの懐かしい三橋美智也のヒットメロディーのオンパレードであり、観客席は笑いと感動に溢れていた。まさに明るいまちづくりは“笑い”からのコンセプトに相応しいイベントであると実感できた。このような素晴らしい芸人を1年以上前から企画し、出演依頼を行い、当日の大盛會にまで結びつけたふたわ影丸と公民館スタッフのご尽力とご苦勞には敬服とともに大変な感銘を覚えた次第である。



会場は笑いに包まれました



噺家さんと実行委員会の皆さん

【期待される効果】

劇場公演の舞台裏方を市民によるボランティアとして支えることを通して、我が国が有する伝統・文化を継承し、風俗・慣習を学びながら次の世代に継承されていくことが、より身近なものになっていくことができよう。

市民活動の拠点としての公民館機能の充実強化が叫ばれている一方で、財源難による行政のスリム化が時代の要請として浮かび上がっている。その中であって、ふたわ影丸と公民館職員による協働事業の推進は、これからの市民活動の一つの方向性を示しているともいえる。日頃公民館を身近に感じていない地域市民に、まちづくりの拠点としての公民館の役割と存在意義に触れ、理解を得ていくことに相当な貢献を果たせていくものと高い期待が寄せられている。

【取材を終えて】

通常、公民館活動の集客率はよくて7～8割といわれる中で、二和公民館公演の集客率は9割を超える高い数値となっている。これもふたわ影丸の日頃の研鑽と市民に喜ばれる企画の賜物であろう。地域で地元の文化を支えるための裏方として、ふたわ影丸の存在価値は益々高まる一方であるが、メンバーそれぞれが楽しみながら力を発揮し、まちの元気につなげようとの熱い思いは、地域コミュニティの再生にも大いに役立つのではないかと期待を抱かせるのに十分なものがあつた。

関わり先（連絡担当者）
二和劇場ボランティア実行委員会
代表 岩瀬 伸之介
TEL：047-447-9116